

§10 海外事業計画を策定する際の留意点①

- (1) 段階を踏んだ企業進出か
- (2) 合併か独資か
- (3) 日本からの輸出規制と進出先の輸出入規制
- (4) 自社の産業タイプと国ごとのインフラ

海外事業計画を策定する際の留意点

事前検討項目

- 段階を踏んだ企業進出か
- 合併か独資か
- 日本からの輸出規制と進出先の輸出入規制
- 自社の産業タイプと国ごとのインフラ
- 進出先の投資奨励策
- カントリーリスクの調査と検討
- 人口ボーナス期
- 海外拠点の資金調達

(1) 段階を踏んだ企業進出か

段階を踏んだ企業進出とは？

海外展開が段階を踏んでいるかどうかを確認する。

海外産品を輸入している製造業の例

- ・海外の現地企業に生産を委託していたのを、海外での自社工場や合併会社での生産に切り替えるために、海外現地に自前の生産拠点を作る。

海外向けに輸出版売していた企業の例

- ・現地生産による製造・輸送コストの低減を狙って、企業進出をする。

(2) 合併か独資か

合併と独資の特徴

	長所	短所	備考
合併	○相手企業の設備・人材・販路等を利用できるため、相対的に少ない初期投資で進出できる	○相手企業との紛争 ○人事権・財務権が相手方にある場合、日本側に不利な運営をされるリスクがある	○合併設立時にかみ合っていた双方機能が、年月を経過しても維持されるか見極める
独資	○重要事項を自社だけで決定できる	○進出先国(地域)を熟知する人材が必要 ○国・業種によっては独資による進出が認められない	○経営を現地側に丸投げせず、コントロールすることが重要

(3) 日本からの輸出規制と進出先の輸出入規制

- ・ 企業進出して海外子会社を運営するために必要な技術や資機材が、日本からの輸出規制と進出先の輸入規制に該当しないことを確認しておく。
- ・ 日本からの輸出規制は、日本の「安全保障貿易管理制度」、種苗法による登録植物の苗や種子の海外への持ち出し禁止、その他輸出規制措置に抵触しないことを確認しておく。



(4) 自社の産業タイプと国ごとのインフラ



ある企業が海外に工場を作って、近辺の地場企業に部品を発注したが、軒並み「それぼちの数量？興味ない」の回答で、仕事にならない。

(4) 自社の産業タイプと国ごとのインフラ



ある企業が海外に工場を作って、近辺の地場企業に部品を発注したが、軒並み「それぼっちの数量？興味ない」の回答で、仕事にならない。

(4) 自社の産業タイプと国ごとのインフラ

産業タイプとは？

- ・ 規格品大量生産型
- ・ 中量中品種生産型
- ・ 少量多品種生産型
- ・ 完全カスタマイズ型

自社の産業タイプが、規格品大量生産型、中量中品種生産型、少量多品種生産型、完全カスタマイズ型、どの産業タイプかで、進出先の国（地域）は決まる。